

# 憧れの「さくら道」、それは感謝、感動の走り旅

～ 2001さくら道270kmウルトラマラソン ～

(2001年4月30日～5月2日)

ゼッケンNo. 181 山猫@滋賀

## 【はじめに】

1994年4月29日、私は大阪・梅田の小さな映画館で映画『さくら』を見た。亡くなる寸前の篠田三郎ふんする佐藤良二さんの姿があまりにも痛ましく、涙が止まらなかった。そして、1995年、私は2回目のフル、小川掛川マラソンを歩くことなく走り切り、その勢いで初ウルトラとなる「野辺山100km」に臨み、あえなく70kmで動くことさえまならなくなり、リタイヤした。この時の苦しみ、悔しさは私のウルトラへの思いを一気に加速させた。ウルトラ挑戦を決意してから2年、1997年春に『さくら道270kmウルトラマラソン』のことを知った。niftyで丹代さんがさくら道への思いを書かれ、この時、映画『さくら』と『さくら道270kmウルトラマラソン』が結び付いた。もし、毎日放送ラジオ「ありがとう浜村淳です」の映画紹介コーナーを聞いていなければ、『さくら』を見ることはなかったであろう。

その『さくら』がNHKで深夜放映されると聞いて、わくわくしてビデオの用意していたのが1998年10月18日、四万十川100kmウルトラの日。その日は遅い台風が日本に上陸するとあって、番組は変更され、関西は台風情報に変わっていた。よりによってさくらの放映日に台風なんて。その後NHKに電話したが、再放映はないとのこと。しかし、関東の方では放映があり、ビデオを送って下さる方がいた。天の恵み。こうして『さくら』を見て、『さくら道270kmウルトラマラソン』への思いを強めて行った。

遡って見ると奇しくも私が映画『さくら』を見た日、それは『第1回さくら道260kmウルトラマラソン』(1994年4月30日～5月2日)が開催される前日だった。ウルトラの魅力にはまった私は100kmマラソンから、それ以上を求めるようになった。それは『いつかはさくら道』を夢見てのことだった。しかし、「270km何て走り切れるのだろうか、丁度、田植えをする時期なので、果たして参加出来るのだろうか」と夢と現実の谷間で悩んだ。「萩往還」なら5月2日からなので、田植えを終えてから参加出来る。しかし、『さくら道』しか頭になかった。『さくら道』でないと駄目だった。私より後からウルトラを始めた人達が『さくら道』に参加しているのを見て、いても立ってもいられなくなった。そして、1999年12月、高槻の momi さん宅で行われた海宝さんの「餃子パーティ」で海宝さんから『さくら道』への熱い思いを聞き、「出たい、出たい」と更に強く思うようになった。決定打は2000年7月の「伊賀忍者武術会」で常連の西堀さんと金澤さんから、「さくら道は素晴らしい。出てみないとわからない」と言われたことだった。伊賀上野で米作りもされている西堀さんは毎年『さくら道』から帰って田植えをしていると言われた。この一言で迷わず、『2001さくら道270kmウルトラマラソン』に申し込むことにした。

## 【さくら道に向けて】

太平洋から日本海までの270kmの道のりを48時間で完走することが容易でないのはわかっている。しかも、岐阜・富山越えである。気温差も大きい。トンネルも多く、長い。自分にはそれに耐えられるだけの体力、精神力が備わっているのだろうか。諦めずに進めるのだろうか。ディパックを背負って走ることに慣れなくてはならない。また二晩徹夜はどんなものなんだろうか。いろいろなものが交差する。

1年計画でさくら道完走に向け、2000年は1月から8月に「東海道五十三次」をひとりでディパックを背負い、地図を見て走った。特に夏休みに走った静岡・由比から箱根越え、日本橋までの3日は辛かった。真夏にあの経験したのは生きてくるはずだ。また今年になってからは1月に水口～名古屋までの100km徹夜走。2月には仕事を終えてから移動し、余呉～栗東までの琵琶湖畔南下90km徹夜走、この時の気温は0℃から-5℃だった。更に3月の平城宮ダブルフルは75kmで止めたが、翌々日に琵琶湖南側(琵琶湖大橋～瀬田唐橋周回)50kmマラニックも行い、疲れた状態で身体を慣らした。今年1月から3月までは過去最高の1340km走った。3月は初めて500kmも越えた。やるべきことはやって臨んださくら道だった。

## 【さくら道前日】

4月29日12時半に家を出て、米原で乗り換え、名古屋まで直行で行く。車内はGWに入っているというのに

結構空いていた。途中、岐阜辺りからさくら道のコースをキョロキョロしながら探すが、「先は長いなあ」と驚嘆する。家を出る時、すでに小雨が降っていたが、名古屋に着くと本降りになっていた。名古屋には15時過ぎに到着。宿泊する「東横イン」を捜していると春井さん&宮本さんペアと地下でばったり会い、方向を聞く。教えて貰った方向に進むと全く逆の北側だった。方向が違っていたので、名古屋駅を横断し、南側に出ると「東横イン」はわかった。松倉さんの名前で予約してもらっていたが、チェックインまで数分だったので、待つて部屋に荷物を置きに行く。ホテルには巨人軍団の方や今村&中平ペアの姿もあった。ホテルでテレビを見ると天皇賞が行われていて、テイエムオペラオーが天皇賞3連覇を果たした。良かった、良かった。

すでにUMML熱田神宮参拝組はJRハイウェイバス乗り場から去って、熱田神宮に向かっていた。私はJR切符を熱田まで購入していたので、16時過ぎにJRで熱田駅に行き、熱田神宮へ安全祈願に向かう。雨が降りしきる中、JR熱田駅からは距離があった。途中で森塚さんと毛利さんにばったり会う。本殿で参拝し終わるとUMML組は立ち去っていたので追い掛ける。名鉄の熱田神宮駅前で合流。名鉄で名古屋駅に向かう。

駅前の大名古屋ビル地下の「六角」で食事会。何と1月に名古屋までの徹夜走を行った時、昼食を食べたのがこの「六角」だった。20人くらい集まっていたであろうか。羽倉さんは直接来られていた。17時くらいから始まり、後半に松倉さん、平さん、坂本さんも合流。19時前にはお開き。結構飲んだ。松倉さんが2次会に行こうと言われたので名古屋のけんちゃんの案内で若者の居酒屋に連れて行って貰う。ここで20時まで飲む。安い店だった。会費は1000円で坂本さんが残りを出して下さった。朝食をコンビニで買い、ホテルに戻ると20時半頃だった。21時からは「日曜劇場」を見なくてはならない。終わると「K1」をやっていたので、また見てしまう。その内、11時になり、慌てて布団に入るがなかなか眠れない。



## 【さくら道当日前】

0時半頃に目が覚め、トイレに行く。それから4時までトイレの繰り返しで、目を瞑っているだけだった。窓を何度も見たが、外はずっと雨だった。不安がつもの。4時に起き、朝食。その間に何度も大便に行く。少ししか出ないため、やたら回数が多い。感じているよりはるかに緊張の度合いは高いようだ。腹ごしらえも終わり、松倉さんと共に走る姿でホテルを5時過ぎに出て、小雨の中をJRハイウェイバス乗り場に行く。もうかなりの人が待っていた。呼びかけ人の酒井さんが丁寧に迎えて下さった。初めてお会いするが、会社の先輩だと春井さんからは聞いていた。中村さんもいたので挨拶。長距離バスが名古屋に帰ってくるので、そのバスに乗り込んでJR東海バス名古屋営業所に向かうらしい。従って時間があてにならないのだ。5時50分頃、バスに乗れた。

6時過ぎにJR東海バス名古屋営業所に着く。雨なので屋根のある場所で受付が行われていた。受付し、ゼッケンを付け、走る準備をする。子供をおんぶした人が受付を担当されていた。文集で読んださくら道が縁で結婚された斉藤さんらしい。ドラマを感じる。インディアンのような格好をした寺澤さんから手作りの完走ゼッケンを頂く。かなり喉が乾いてきた。ペットボトルを買い忘れたのが気になる。その後、お茶のサービスをして下さる方があり、助かる。朝倉さん、綱村さんと挨拶。朝倉さんは少し厚目の化粧をされていた。珍しい。マツちゃん&Wandaさん夫婦やのうてんきいーず夫婦、michikoさん、その他知人達と挨拶。名古屋のPICOさんが応援に来てくれた。同じく応援に来てくれたネイチャーラン完走の神園さんからはアミノバイタルを頂く。そうこうしている内にスタート時間が来た。

## 【JR東海バス名古屋営業所(スタート)】 4月30日 07時00分

小雨の中、JR東海バス名古屋営業所を7時一斉スタート。荷物は2.5kgくらいだと思うが、出来る限り負担のないよう、ゆっくり走り出す。上はドライ長袖シャツ&UMML半袖速乾シャツの重ね着、タイツはワコールのCWX、その下は普通のブリーフ(途中で捨てる予定)、シューズはサッカニーのJAZZ3000、ソックスはランニング用ではなく普通のもの、足



の両親指にはパットを当てテーピングした。ディパックには洗濯バサミを付け、濡れたウェアを干せるようにした。名古屋市内はよくわからないので集団に付いて行くだけ。信号が多く、待ち時間も長い。ペースが遅いのでどんどん抜かされて行く。しかし、信号に引っかかるとみんな関係ない。信号を無視する人、守る人いろいろだ。「六反小学校前」の左折手前でうてんき1号さんに抜かれる。ディパックには手作りの人形がぶら下がっていた。うてんきいらず人形か？。蒸し暑くなってきた。水が飲みたい。しかし、みんな飲んでないなあ。こんなに蒸し暑いのに何故飲まないのか不思議だ。

名古屋駅前を右折するが、ここはひとりならわからないだろう。付いていくのは楽だ。「桜通り」は歩道も広くて走りやすい。「桜通大津」交差点を左折し、「名城公園」方面に向かう。結構、皆さんのペースが速いように感じる。「名古屋城」前では名古屋のけんちゃんが応援してくれていた。マークンの母さんを抜かして行く。「城北橋」で左折し、名古屋城裏側に進む。喉が乾いた。ここは歩道が狭い。10km辺りでmichikoさんを抜かす。ここで抜かすということはmichikoさんのペースが速すぎるのではないかと思う。

「幅下橋」を右折すると国道22号線になる。ここでは越田さんが飴を用意して下さっていた。ここからは歩道も広く走りやすいが信号は多い。更に蒸し暑くなって来て、スタートから1時間半過ぎようとしていた。13km辺りでコンビニがあったのでドーナツと水を買う。やっと水が飲めた。うまい。そして、ドーナツで栄養補給。その先で暑いので長袖を脱ぐ。「庄内川」を越え、しばらく行くと「飛騨ウル」常連で愛知の鈴木佳江さんと並走。かつて「夜叉ヶ池」で話したことがあるが本人は忘れたと言われていた。「西枇杷島」に来ると昨年、水害のあったところなので、そんな話をしながら進む。また、神園さんの話をすると良くご存じだった。この辺りでは国道から県道の「岐阜街道」に変わっていた。

左手には大きなキリンビール名古屋工場があった。何か携帯の音が鳴っていると思うとS田君からだった。「頑張っているか？」というメッセージだったが、呼び出し音が鳴ると「家からでは」とドキドキした。「また掛ける」言われたが、大会で走っている最中に必要以外の電話は嫌なので断った。勘違いして、2日目だと思って電話したらしい。それにしても全体のペースが速く感じる。星峰さんに抜かされたのもこの辺りだ。東名阪高架下ではワゴン車から海宝さんの応援を貰う。嬉しい。蒸し暑さが厳しいのでコンビニでアイスクリームを買い、走りながら食べる。「巨人軍団厚木支部」と書かれたワゴン車に乗った柴本さんが手を振りながら通過して行った。柴本さんは名簿には載っていたが、走っていないようだ。小松裕美さんを抜かしたのもこの辺りだった。ネイチャーランを走られた疲れがあるみたいだ。GWなので車道の南向きは停滞している。やや雨も上がり始めた。「赤池」付近では私設エイドが2ヶ所ほどあり、給水させてもらう。名古屋楽走会のエイドが名神高架下にあり、冷たいタオルで顔を拭かせて貰った。気持ち良い。10時になると完全に雨は上がっていた。

## 【一宮裁判所前(27.3km)】 4月30日 10時18分

水を補給し、海宝さんに写真を撮って貰う。「本町」で左折し、「尾張一宮駅」前を通って北に向かう。少しややこしく思えたので吉田久美子さんの後を追う。尾張一宮駅前にはマークンの母さんのご主人が移動して応援してくれていた。すでにこの辺りから左足親指の炎症防止のために巻いていたテーピングがずれ、隣の指にマメが出来たらしい。少し痛むが気にしないようにした。「音羽公園」の信号待ちで綱村さんに追いつく。あまり調子が良くないと言われていた。JRと名鉄の跨線橋を越えると右膝のテーピングが痛々しいゼッケン242番の浅井さんの姿が目についた。抜かして行く。Wandaさんには声を掛け、抜かして行く。出来るだけ休まないでラン&ウォークのコンビネーションを取り入れているようだ。フォームは良いなあと感じる。板木さんが前にいたので声を掛け、並走する。話すのは初めてだが、草津ということで名前を知って貰っていた。かなり頑張っているようだ。その先の木曾川手前の坂で歩いていた太田さんを抜かす。やや曇ってきて、「木曾川」に掛かると弱いながら肌寒い横風が吹いていた。右前方には雪に覆われた山々が見え、少し感動する。



11時まわり、そろそろ昼食をとらないといけない時間だ。昨年の森川さんの完走記では笠松で昼食をしたと書いてあったので、どこに入ろうかキョロキョロする。「柳津東塚」を右折し、この辺りで昼食しようと思うが、ラーメンはちょっときつい。手っ取り早くローソンで牛丼弁当とビールを購入し、外で腰を降ろして食べる。食べるとトイレに行きたくなる。20分ほど休み、先を急ぐと、横にあったうどん屋から朝倉さんと清原さんが出て来た。

「味は」と聞くと「美味しかった」との返事。「ここに入るんだ」と後悔。その後は3人で世間話をしながら進む。朝倉さんとは何でも言い合える間柄なので気楽だ。「化粧はまだ大丈夫やなあ」と冗談を言う。またまた暑くなり出した。タオルは顔を拭く度に絞らないといけない。先の小さな橋の上で親子(母親と娘さん)のエイドがあった。水とバナナを頂く。これが綱村さんから以前に聞いたエイドのようだ。小さなエイドだが、心温まるものがあったと言われていた。自分もそう思った。有り難い。

「金津町四丁目」で右折し、やや狭い歩道を進む。ここからは国道248号線になる。暑い、水分が欲しくて仕方ない。清原さんがトイレに行ったので、コンビニに寄って冷たい炭酸水を飲むと気持ち良かった。清原さんと合流し、ひたすら前に進む。清原さんは朝倉さん同様、熊野黒潮の常連だったそうだ。「後半食べられなくなるのが心配」と言われていた。「岩田駅」近くにはネイチャーランナー浜中好美さんのエイドがあった。暑い最中なので嬉しい。坂本さんの重い荷物のお話をしていると何とそこで横になられていたのが坂本さんだった。奇遇だ。少し進むと清原さんが「先に行って」と言われたので朝倉さんと先に進む。棚橋工業手前では千葉ナンバーのワゴン車のサポートを受ける。「千葉からご苦労様」と言って進む。仲間が参加されているのだろうか？

その先は歩道がなく、路肩の狭いところを進まなければならない。車は結構多い。足元に気を配りながら、朝倉さんの後ろを進む。「小屋名」で国道156号線から国道248号線に入ると朝倉さんとの距離が離れ出したので、少し歩く。気掛かりだった左足親指のテーピング部の痛みは気にならない程度に落ち着いていた。何か固まったような感じだ。踏切の向こう側にエイドがあったので、踏切を渡って寄る。和歌山ナンバーの車だ、豆腐を出して下さった。この暑い折、豆腐は食べやすく嬉しい。御礼を言って去ると今度は東海北陸道高架下にはフル百回楽走会のエイドがあった。壁にはモーニング娘のナショナルエアコンポスターが貼ってあったので、「関係者ですか？」と尋ねると「近くの電気屋さんが元気出るよう、貼ってくれた」とのこと。水分、果物で補給し、そうめんも頂いた。その先で左折し、美濃市役所を目指す。

最初歩道は狭かったが、国道156号線に合流すると歩道は広くなった。突然、救急車が近づいて来た。「まさかランナーと車の事故ではないだろうなあ」と思っていると道を越えた反対側のサークルKの前で止まっていた。ランナーに何かあったようだ。ランナー数人が見ている。聞くと「自分で転倒して血を流している」そうである。大したことはなさそうで安心した。ここで神奈川の谷さんと前後することになった。谷さんは過去2勝2敗だそうで、今回は完走の順番だそうだ。東海北陸道高架下に差し掛かると反対側歩道を走る松倉さんを発見。声を掛ける。松倉さんは左を、私は右を走り、美濃市役所前で合流。調子は今ひとつのようだ。

## 【美濃市役所前(66.4km)】 4月30日 15時48分

すぐ先のコンビニに寄ると朝倉さんが出て来たので、待つて貰って一緒に出る。アイスクリームを食べながら進むと、すぐに美濃市役所エイドがあった。16時前になってまた暑くなって来たので、出来る限り水分補給を心掛けた。先に進むと無茶苦茶暑くなってきた。Wandaさんがいつの間にか前に行っていた。食べないで先に進むことを優先しているのか？。また車の数が増え始めた。その先にエイドが見え出した。ここは浅井さんの奥さんがいつもエイドして下さる場所のようだ。柴本さんも見えた。柴本さんは「仕事があって走れないのでエイドしている」と言われた。暑いのでスイカが美味しそう。二切れ頂く。冷たくて美味しい。ここで momiさんから点滅灯を手渡しされた。2個になるので丁度良い。すでにマツちゃんも着かれていたので、「Wandaさんはもうすぐ」と話す。横の水道で頭から水を被る。冷たい、気持ち良い。ビールも頂き、朝倉さんと先に進む。松倉さんと会えたのはここが最後となった。

この辺りは東海北陸道と国道156号線が交差する形で北に進むことになる。しばらく進むと韓国から参加のゼッケン249番の尹(ユン)さんが合流。彼は英語で何か話し掛けるが、全くわからない。朝倉さんは単語がわかるのか、単語の序列ながら会話されている。これにはびっくり。口だけではなかった。結構、出来る人だったのだ、と尊敬の念を抱く。この辺りから、心配していた右腕上腕部がだるくなり始めた。ちょっと心配。歩道のない「立花トンネル」を潜るとくーさんと名古屋のけんちゃんがエイドを開いてくれていた。くーさんは京都からわざわざ私設エイドと応援のために来て下さったのだ。有り難い。朝倉さんは尹(ユン)さんと先行して行った。水や菓子を頂いて進むと右手の長良川の橋手前に多数の鯉のぼりが川幅いっぱいに掲げられていた。写真を撮って、眺める。「須原トンネル」を越えた右側のローソンでは巨人軍団の斉藤



さん達が腰を降ろして食べられていた。早い夕食か？。私は路肩に腰を掛け、地図を眺めていると隣家から小学校低学年くらいの子供さんが駆け寄って来て「頑張ってください」とアップルジュースのパックを私の手に渡して、さっと帰って行った。無茶苦茶嬉しかった。「この有り難い差し入れをしてくれた小学生のためにも、この先頑張らなくては」と完走の決意をする。

その先の右側には道の駅「美並」があった。時計も17時半となったので夕食を摂る。丁度良い時間だ。外で食べる人、食堂で食べる人それぞれだ。観光の人達も多い。とりあえず食べないといけないので、焼おにぎり定食を注文。焼おにぎり3個とそばだった。食べる前にソックスを脱ぎ、左足人差し指を見ると案の定、水が溜まっていたが、親指に密着したため痛みがなかったようだ。食べる前に水を抜き、バンドエイドを貼る。これでひとまず安心。かなり身体が熱くなっているの、熱いそばは食べにくい。失敗した。焼おにぎりも1個しか食べられず、残り2個はサランラップに包んで貰った。あとで焼おにぎりを食べようとすると硬くなって食べられなかった。残念。その時、革ジャンを着た京和トライアスロンの井上さんがひょっこり現れた。びっくりだ。海宝さんと親交のある井上さんはわざわざバイクで京都から応援に来てくれたのだ。嬉しい。約30分休んで、スタートする。

長良川の蛇行に伴い、国道156号線も蛇行する形になり、歩道のないところ、或いは左、右に横断しなければならぬところが多く出て来た。1kmほど行くと道端でカイロプラクティックの若者によるマッサージのサービスがあったので10分ほど寄る。まだ平坦なので筋肉痛はないが、横になって背中や痛めやすい部分を念入りをお願いする。好きでやっているランナーのために有り難いことだ。先に行くと言ったトラックの運転手の「頑張ってください」の声がスピーカー越しに聞こえてきた。これも嬉しかった。車の量が多く、なかなか横断出来ない。堀池さんが苦しそうに走られていたのもその頃だった。美並から朝倉さんは先に行ったので、ひとりで走る事になっていた。徐々に夜も更けて来たというのに蒸し暑さは相変わらずだ。

美並村役場を通過すると短いトンネルが時々あり、歩道はトンネルの外側にあった。最初はこれを見落とししていたので、トンネルや洞門内を進んだ。もう灯りを付けないと危険な時間になっていた。板木さんと Wanda さんを抜かしたのもこの頃だ。「いつの間に抜かされたのか？」と考えると美並での夕食時のようだ。調子が悪いという Wanda さんに「胃薬持ってるよ、あげようか」と言いながら、次に会った時に渡そうと思っていたが、結局その後会わずじまいだったのが悔やまれる。あの時に渡せば良かった。「日本の真中のご真ん中」の象徴的なタワーが右に見えたのもこの頃だった。川に沿って、清流の心地よい流れ音を聞きながら進む。斉藤夫婦が給水エイドをしてくれていた。生後1年の瑞貴ちゃんをおんぶしての奮闘だ。去年の文集を読んだことを話し、御礼を言って立ち去る。ラーメンが食べたくなくなったので郡上八幡駅手前のオートレストランに入るが、お金を入れても受付なかった。残念。郡上八幡駅は国道から右に逸れないといけないのだが、地図がわかりにくくそのまま行こうとすると後ろから来たランナーに「右側」と教えて貰う。

## 【郡上八幡駅(95.5km)】 4月30日 20時19分

缶ジュースを飲んで一服。道なりに進むとまた国道156号線に合流。インターの信号を越えた先のサークルK前が郡上八幡エイドだった。ここでは豚汁とぜんざい、牛乳を頂く。今年はこの郡上八幡エイドが難しいとの情報をUMMLの山田さんから聞いていたが、規模が小さくなくても直前に出して頂くことになり嬉しい限りだ。ただ山田さんの姿がなかったのが残念。横には何とさくら道の王者だった丹代さんがいた。今年も相当苦しいようだ。10分ほど休んで、出発する。真っ暗な中、ライトの灯りを頼りに進む。出来る限り右側を進むが、場合によっては左側に変えることもあった。この辺りだと思うが、眠気防止用フクロウの掲示盤の目が赤く光っていた。公衆トイレがあったので入ろうとすると虫でいっぱい。2cmくらいの虫が飛び回っていて、とても入ることは無理だった。私は百姓柄、湿気が多いと虫が多く出ることを知っているの、この虫もその湿気のせいではないかと思った。東海北陸道高架下を潜った先にコンビニがあったのでヨーグルトを食べる。冷たくて美味しい。半袖だが全然寒くない、むしろ暑いくらいだ。

「大和町」の本田よのさんのエイドは凄く立派でびっくりした。大きな屋台みたいでメニュー表示もあった。先に着かれた毛利さんが座られていた。うどんと温かいココアをお願いする。前には田舎らしい里芋の煮物があったので2個頂く。中学生か高校生らしい女の子が手伝っていた。明日学校だと思うが、もう22時を回っていて申し訳ない気分になる。外に本田よのさんらしい方がピンクのウインドブレーカーを着て、椅子に座られていた。ゼッケンで確認した息子さんの本田勲さんは途中で抜かしたが、何度も携帯で連絡を取られていた。御礼を言ってエイドを後にする。更に歩道は狭くなり、右に行ったり、左に行ったりしながら進む。この辺りから歩きを入れたコンビネーションランに徹するようになった。

100kmは予定通り14時間で行けたので、これからは24時間で160kmを目指すようにした。それには疲

れないことが第一である。2~3kmほど行ったところでshirubeさんと並走されている毛利さんを発見。声を掛けて追い抜いて行く。再び東海北陸道高架下に来ると道幅は広く走りやすくなる。この辺りで丹代さんを抜く。その後、丹代さんに抜かれることはなかった。その先のコンビニで初めて缶コーヒーを飲んだ。しばらくして戻そうになった。やっぱりKadoさんが掲示板で書かれていたように、コーヒーは良くなさそうである。更に道幅が広くなり、白鳥の中心部に入った。「白鳥」で左折して、そのまま国道156号線を進み、「奥美濃大橋」を渡る。丁度真上には、東海北陸道が見えていた。ここで右斜め前方の公園の中に進み、「顕彰碑」に向かう。アスファルトに矢印で方向が示されているのでわかりやすい。民家の間の急坂をぐねぐねと曲がり、坂をはあはあ言いながら上って行くと、1kmほど進んだところにライトアップされた桜と立派な『桜守佐藤良二君顕彰碑』があった。

### 【佐藤良二さん顕彰碑(116.2km)】 4月30日 23時43分

酒井さんが迎えて下さった。顕彰碑の前で写真を撮って貰う。桜の音楽も流れていた。実に風情がある。酒井さんはこうして最終ランナーが来るまで待って下さっているのだ。実に人柄が偲ばれる。今度は下りなので一気に走る。途中でゼッケン40番の方に声を掛ける。「平城宮ダブルフル」ではいつも半分眠って走られているのでよく覚えているが、谷川さんという奈良の方だった。来た道とは別に途中から左に進むと民宿「てんご」があった。確か著書「さくら道」では「てんご」が佐藤さんの家と書かれていた。その先の交差点でサポートの方々が拍手で迎えて下さった。その隣にエイドの民宿「さとう」があった。

椅子に腰掛け、味噌ダレのおでんを頂く。横を見ると太田さんがいた。「早く着いたなあ」と言う。食い気優先でお粥も2杯頂く。うまい。お粥は最高だ。おでんをお代わりし、お粥のおかずにする。佐藤良二さんの姉てるさんの顔は見られなかった。もう0時を回り寒くなってきたので、長袖を下に着て、半袖との重ね着をする。戻すのではないかと心配ながら、出発前に大好きなコーヒーを頂く。御礼を言ってエイドを後にする。桜並木の中を進む。「昼なら良いのになあ」「良二さんが植えた桜なのかなあ」などと思いながらコンビネーションランに徹する。今走っている道と映画『さくら』の場面のことを思い出しながら前に進む。しばらく進むと食べた物を少し戻した。やはりコーヒーは超ウルトラでは自分には合わないと感じる。コーヒーは止めるべきだった。結果、これが最後のコーヒーとなった。先に白鳥をスタートした太田さんを抜かず。今回は彼の気迫を感じていたが、白川郷でリタイヤしたようだ。徐々に上っているのでわかりにくいが高標高400mくらいに来ている。あちこちで水の流れる音がして来た。湧き水の音らしい。この辺りは水が豊富なところだ。私は水の音色を聞くのが好きだ。そんな中、調子が今ひとつみたいな、後ろにいる松倉さんのことが気になる。

道の駅「白鳥」では何人かが休んでいた。その先に丸太棒の椅子があったので、ケスラミンを上腕部、背中に塗り込む。股ズレもひどくなったため、メンタームを痛い部分に塗り込む。気持ち良い。メンタームは愛用品だ。この辺りは桜並木が多い。その先に長良川鉄道最終の「北濃駅」があった。5月1日に日付は変わっていた。広い道路を先に進むと右カーブの左側に「ウイングヒルズ白鳥リゾート」方面の表示があった。徐々に徐々に上っている。もう時計は1時を回り、車はほとんど走っていない。気温は16℃くらいとかなり高い。その分走りやすい。すでに「高鷲村」に入っていた。その先に幾つかの建物が見えて来た。一番奥が「高鷲商工会／観光協会」の建物だ。

ここで国道156号線から一旦外れ、右の高鷲商店街の方に入る。前の2人組のひとりには右に曲がり、もうひとりはその人の指示を無視して国道を真っ直ぐ進んだ。「ずるいなあ」と思う。標高も600m近くになったので風が出て来て寒い。ウインドブレーカーを着る。そのすぐ先に新しいコンビニがあったので入るが、温かい食べ物が何もないので栄養ドリンクを飲む。こういう時はおでんでも欲しいものだ。坂を上った「猪洞橋」で国道156号線に再び合流。先程、真っ直ぐ進んだランナーと一緒にいる。ここからは延々と上りに入る。風が出てきて寒くなって来た。ただひたすら歩く。チームGOZIRA小川さんのエイドがあるはず。左側に車の姿が見えた。エイドだ。テント内に入り、小川さんに海老ピラフとコーンスープを頂く。暖房が良く効いていて天国のようだ。どんどんランナーが到着するので、食べ終わると御礼を言って先に進む。気温は7℃くらいになって来たが、上りなのでそれほど寒さは感じない。時折走る車はスピードを上げているので要注意だ。

大日岳スキー場の看板が見え、「ダイナランドスキー場」の表示があった。大日岳がダイナランドのようだ。岐阜のスキー場には来たことがないので良くわからない。その先にヘアピンカーブがあった。歩くのも辛い。ただひたすら前に進むだけ。車が来ると大回りするので避ける。ここが一番きつい場所のようだ。ここを乗り越えると



やや緩やかな坂になり、走り出せた。気温は変わらず7°Cを示している。そして一面ガスになって来た。

### 【ひるがの分水嶺(139.6km)】 5月1日 03時41分

これからは下りなので楽だ。初めてなのでそんな余裕はなかったが、後で思うと分水嶺の太平洋と日本海の分水を見たかった。200mほど行ったところにあった無名会のエイドでは手ぬきうどんをご馳走になる。ふと横を見ると何と岡村さんではないか。顔色が悪い。もっと先に行っている筈だとばかり思っていた。「貧血でしんどい」と話されていた。「萩もあるので、無理しないように」と言って先にエイドを出発。

ここからは下りになるが、ガスがひどくなり、風も出て来てやや寒い。「蛭ヶ野スキー場」の表示が右にあった。しばらく行くと路面温度は6°Cに下がっていた。「荘川村」に入ればしばらく進むと路肩のアスファルトと土の間の段差で転倒、右膝を打つ。メモを取りながら歩いていたため、足元が狂った。タイツは大丈夫だが、右膝は擦りむいたようだ。後ろを走られていた岡村さんに気遣って貰う。しかし、痛みもなく、そのまま進めた。この辺りから路肩の斜面には残雪が見え始めた。左に流れるのは「御手洗川」という。左手には白樺林が見え、少し明るくなり始めた。ガスの中で幻想的な光景だ。

「牧戸橋」に来ると御手洗川と庄川が合流する場所だ。その手前の自販機で山田幸一さん、岡村さんと合流し、水分補給する。3人はそれぞれのペースで庄川桜を目指す。缶を捨てるどころがなく、ずっと手に持って捨てられる場所を探しながら進む。そのうち御母衣ダム湖が見え出した。水位はかなり低く、遺跡のような雰囲気をかもし出している。まだ5時過ぎだが車の数はこの時間にしては多いように思えた。「岩瀬橋」を越えると短い「岩瀬トンネル」が3つあったが、どれも狭く、車が2台やっと交差できるくらいの幅で、車が来ると危ないので立ち止まる。「ドライブインみぼろ湖」でやっと空き缶が捨てられた。ドライブインにはこんなに早い時間なのに観光バスがトイレ休憩で止まっていた。この辺りは歩きと走りの繰り返し。山田さん、私、岡村さんの順位で進む。

### 【荘川桜(154.7km)】 5月1日 05時52分



樹齢450年、荘川桜の大木はまだつぼみだった。記念に写真を撮る。元々はこのダムの下に、この荘川桜はあったのだ。前代未聞の大移植作業でここに移されたが、こうやって見られるのもさくら道に出られたからだ。エイドでは海宝さんが迎えて下さった。関家さんはパソコンを叩かれていた。Kadoさんの掲示板に状況をアップしているとのこと。のうてんき2号さんも手伝われていた。雑炊2杯とカレーライスを頂く。カレーがうまい。ビールも頂いて、荘川桜エイドを後にする。その後の「尾神トンネル」も狭く、ダンプカーが来ると立ち去るのを待った。徐々に車の数が増えて来た。仰いで山肌を見ると残雪でいっぱいだ。次の「福島保木トンネル」は地図と異なり、

1kmくらいの1本の長いトンネルに変わっていた。御母衣ダムが大きく見えるようになって来た。やや暑くなり出したが、顔から汗が出てこない。何故なんだ？。



『御母衣ダム』162. 8kmは7時21分通過。ロックフィル式のダムだ。石と粘土だけで積み上げられたダムらしい。その横には「福島トンネル」が3つあり、ここも狭かった。ここを過ぎると急カーブの下り途中に電発エイドがある。ここでは温かいコーンスープや焼いたお餅を頂く。初夏の陽差しが気持ち良い。その先には桜が咲いており、雪化粧の白山連峰、御母衣ダムのショットで写真に納める。その時、その後相前後して走ることになる韓国のゼッケン248

番、鄭(チョン)さんに抜かされた。少し行くと白山登山口バス停があった。平瀬温泉の看板を見て「温泉にも入りたいなあ」こんな気持ちになる。「平瀬温泉」には田口建設エイドがある。着くと熱いタオルを差し出して貰い、豚汁を頂く。脱水が心配なので水分をどんどん摂る。少し行ってから、暑くなって来たので半袖になった。左には白山連峰の山々がまだすっぽり雪を被り、そびえ立っていた。この辺りから山田金男さん、岡村さん、鄭さんと相前後して進むことになる。この時はまだバラバラで走っていた。車が多くなってきた。「鳩谷ダム湖」辺りから右足首が痛くなり、持病が再発。下りが多くなった分、柔軟性のない右足首に負担が掛かったのだ。歩きを出来る限り多く取り入れ、無理しない作戦に切り替える。今の状態では岡村さん達に合わすには無理がある。更に車は多くなり、間もなく白川郷に入って行く。



### 【白川郷分岐(179.5km)】 5月1日 10時14分

日本100マイルクラブの阪本真理子さんと関根さんがエイドして下さっていた。腹が減り、ご飯を食べたいのでここでは水分とお菓子の補給に止めた。阪本さんに「汗が出ないで、トイレが極端に多いのは脱水ですか？」と聞くと「脱水症状ですから、気をつけてね」と言われた。3人より先に立って、世界遺産「白川郷合掌集落」を写真に収め、ゆっくり腹ごしらえするつもりだった。観光客でいっぱいの中、神社で顔を洗う。しばらく進むと地図を忘れたことに気づく。すれ違った岡村さんにはそのことを言う。写真と食べることに必死になり、苦労して作った地図を忘れるとはショックだ。バックして探しに戻る。結局、ディバックを降ろした場所に地図はなかった。メモもチェックポイントも全部消えた。何と云うことだ。仕方なしに地図のないまま、先に進むことになった。この先、道の駅「白川郷」までのたった2km程度でも地図がないことがこんなに不安を募らせるとは驚きだ。地元の人に聞きながら進む。この時は地図を落としたあせりで走っていた。

先に道の駅「白川郷」が見え、ランナーの姿がちやほや見え出し、ひと安心する。近づくといっぱいランナーがいる。綱村さんが「早いなあ」と声を掛けてくれる。岡村さんを捜す。見つかった。「地図が見つかんから、一緒に引っ張って」と言うと「地図貸して上げる。山田さんと一緒に金沢まで行くから」と言って貸して貰えた。綱村さんは「腹の調子が悪いからリタイヤした」とのこと。「松倉さんは？」と聞くと「リタイヤしていない」と言われ、ほおとする。「いる物があれば貸して上げよう」と親切に言って頂く。嬉しい。ここにいるたくさんのランナーはリタイヤ組で止



まっているバスに乗り込むようだ。結局、何も食わずに先に進むことになり、後々、大きな誤算となった。

地図の心配の種は解決し、山田さん、岡村さん、鄭さんと共に「飯島トンネル(1873m)」はかなり足元が悪かったが、走り切れた。この時、歩道と車道の上下を何回もしたので、足首に負担が掛かり、痛みが増した。トンネルを出てからはもう3人に付いて行けなくなる。それと暑い。完全に歩き出す。この先、自販機さえないのでポトル2本を用意しているが、脱水の方が心配。汗が出ない分、トイレの回数がやけに多い。小便漏らしそう。何か飲めば上から下へ一直線という感じだ。嫌な気分。次は「新内戸トンネル(1322m)」、ここも滑りやすかった。工事があちこちで行われ、砂ボコリがひどい。道路脇に座りたくても、ホコリで座れない。ひたすら歩く。前を行く3人は走ったり、歩いたり、止まったりしているが、私は止まることはせず、前に進むことに集中した。余裕がない。朝倉さんに追い着かれたのは「加須良トンネル(1038m)」手前辺りだと思う。「何んでここにいるの。もっと前と違うの」と言うと「眠たかったから、寝ててん」と言ってずっと前に行かれた。加須良トンネルの歩道は水が落ちておらず、歩きやすかった。

この先は「飛越峽合掌ライン」といい、川を渡る毎に岐阜と富山の県境が変わるところだ。庄川のコバルトブルーと白山連峰のホワイトがマッチして素晴らしい景色だ。しばし眺める。「合掌大橋」の先にはエイドがあった。このエイドに波多ママがこの時、いらしたいたかどうかわからなかった。ここでは水を補給し、お菓子も頂いた。この先はSの字の庄川を何回も渡る形になった。昼も過ぎ、ますます腹が減って来た。富山県の「上平村」に入ると少し先には道の駅「上平」がある。ここで食事が出来ると思うと嬉しくなる。喉も渴いた。山田さん、岡村さん、鄭さんは止まる時間が多いので、私より後ろだった。

道の駅「上平・ささら館」には13時半に到着。この中にある喫茶「たんぼぼ」はランナーには半額にしてくれるそうだ。森川さんは昨年、ここで五箇山名物「とうふ井」を食べたと文集に書かれていたので、私もこれを注文。冷たい水がうまい。何杯もお代わりする。先に座られていた武蔵UMCの小川さんは「さくら道4回目で全て完走している」と話されていた。1月の琵琶湖一周も来られたそうだ。小川さんはカレーライスを食べられていた。とうふ井にはたっぷり豆腐と天ぷらの衣が乗っている。揚げ出し豆腐が上に乗った感じの丼だ。食べようとするが受け付けない。トイレに行きたくなる。こともあろうに食べている最中に、トイレが終わると胃薬を飲んでから、とうふ丼を食べると今度は一気に食べられた。栄養補給は満点だ。美味しかった。ここで足首の痛みを緩和させるため、痛み止めの「イブA」を飲む。効いて欲しい。小川さんは「30分ほどしないと効いてこない」と言われた。とうふ丼は350円と半額だった。店を出る時、ペットボトルに冷たい水をいっぱい入れて頂いた。すでに小川さんは先に出られていた。30分ほど休んだので少し元気になった。

少し行ったところに「行徳寺」という立派なお寺があったので写真を撮る。その先の「新屋橋」は「民謡歩道」といい、欄干のボタンを押すと4曲の民謡が流れるようになっていた。ここからは上りで歩道も広くなる。ここで三重県から参加の黒宮さん達と一緒に歩く。丁度上を東海北陸道が走っていた。眼下の庄川脇には「五箇山合掌集落」があった。上平町役場前に「くろば温泉」の看板。また温泉に入りたくなる。この辺りから痛みが消え、走り出せるようになった。痛み止めが効き出したのだ。「こりゃ、一気に距離を稼がないと」こんな心境になる。2つ目の民謡歩道のある「小原橋」を越え、ペースを上げる。岡村さん達は道路脇の食堂に入られたようだった。

「上平村」の上梨は観光地らしく、止まっている車が多い。ここは「五箇山温泉」と言うらしい。土産屋がたくさんある。「上梨トンネル」は森川さんの完走記には正規のルートを進まないランナーが多いと書いてあった。私はトンネルを通らない正規のルートを進むつもりだ。トンネル手前で酒屋に寄り、缶ビールを一缶飲む。美味しい。店の人と世間話をする。これが楽しいんだ。右に逸れ、正規ルートを進もうとすると2本道があったので、左の急な方に行く。雪が道路にいっぱいある。無茶苦茶急だ。しかし、上る。だが、どうも違う。引き返して、右側の庄川沿いの道に行く。これが正解らしい。トンネルの上を越えると眼下にはさっき抜かして行った黒宮さん達がトンネルから出て来た。距離が大夫違うみたい。更に進むと今度は道路の



左上に出た。どうしたら国道に合流出来るか心配になる。しかし、何とかその後、合流出来た。三重の2人に話をすると「何でわざわざ遠回りするの。距離が長いんだから、ロスが減らさない」と言われてしまった。当然か。少し先に下梨エイドがあった。名物「五箇山豆腐」に醤油をかけた物を頂く。豆腐はうまい。さっきから左足底が痛いと思っていたら、マメが出来たみたいだ。針を借り、水を抜こうとするが、皮の厚い部分で水が出ない。仕方ないので、そのまま辛抱する。

### 【下梨(209.5km)】 5月1日 16時05分

国道156号線から、国道304号線に入るといきなり急坂が待っていた。3人で話をしながら歩いて必死で上る。下を見ながら、「ここを上るとエイドには立ち寄れないが大夫近回りだな」などと話す。本当にきつい坂が続く。頭上を見るとトンネルが見える。ここまで上らないといけないのか。まるで山登りだ。次第に3人は沈黙の上りになった。下梨から約3.5kmほど上ったところに名古屋のけんちゃんとか一さんがエイドを開いてくれた。坂の途中なので嬉しい。トップのちび黒さんは走って上って行ったという。凄い。眠たくなって来たので長袖を重ね着して横にならして貰う。20分くらい寝るつもりだった。しかし、寒さも手伝って眠れない。世間話をして、お菓子と水を頂き、先を急ぐ。丁度その時、岡村さん達に追い着かれた。「梨谷トンネル(812m)」に入るとやっと急坂から開放され、橋を渡ると最長の「五箇山トンネル(3072m)」、ここも歩道は滑りやすい。ずっと歩き続ける。途中で小便がしたくなり、壁にする。トンネルを出たところで momi さん達がエイドを開設。温かいものを頂く。後から来た岡村さん達は走り通したらしい。

ここからは下り、しばらく行くと、昨日美並でマッサージしてくれたカイロプラクティックの若者達がいたので、またマッサージをお願いする。昨日とは違い、筋肉が張っているので入念にお願いする。うつむせになると眠ってしまいそう。ここでも温かい紅茶を頂き、先を急ぐ。まだ痛み止めは効いていた。ずっと下りが続く。9%の下りが4kmくらいはあったと思う。下り切ると「城端町」の町並みが見えて来た。道路状態も良く、歩道も広い。また暑くなって来たので半袖になるが、城端町役場前ではまた長袖を重ね着した。ここまでは走れた。この先で大きな幅の道路に出るが、城端橋がわからないので、2つの店に入り、聞いた。真っ直ぐだが、途中から狭くなるのでわかりにくかった。

T字路を左折すると「城端橋」があった。ここから福光までは真っ直ぐだ。ひたすら歩く。ここは道路も広く、歩道と車道の間には木々が植えられていたので、歩道は暗かった。ファミリーマートがあったので焼肉ピラフを注文。出来た物は熱いところとぬるいところがあり、へたくそな作り方だった。取りあえず、座り込んで食べる。20時を回っていた。少し行くと松島燃糸福光工場のエイドがあった。さっき食べたばかりなので飲み物中心に頂く。ディパックを降ろしてくれたり、至れり尽くせりで悪いような気がした。御礼を言って立ち去る。JRの線路と国道304号線は並行して走っていた。途中から歩道は狭くなり、足元に気を遣う。歩道に数人の人が応援に立っていてくれた。世間話をして、「坂上松華堂さんは次の信号を左折」と教えて貰う。信号を左折すると出迎えがあった。

### 【福光橋(231.4km)】 5月1日 20時58分

「坂上松華堂」さんではリタイヤされた綱村が迎えて下さった。また、たくさんの方々に迎えて貰う。嬉しい。店の中に入っておかゆとお茶を頂く。早目に出るが、この先がややこしいと何回も行き順を教えて貰う。電池が切れたので交換。男の人が後を追って、間違っていないか確認に来てくれ、OKの合図を貰う。握手をして別れる。斜めに進むと道の駅「なんと一福茶屋」でペットボトルを2本購入し、山越え準備。そこを過ぎると急に寂しくなる。足首が痛くなり、もう走れない。歩くのも辛い。右手に「華山温泉ホテル」があった。「あんな温泉に入りたいなあ」と思うようになって来た。トンネルを越えると、先程私を抜かした人が若い2人の女性から個人サポートを受けていた。石川ナンバーの軽だった。「隠れてこそこそするな」と言いたい。

寂しい中をひたすら歩いて進む。「蔵原」も寂しいところだった。徐々にアップダウンも多くなり出す。腹が減って来たが、こんな寂しいところでは食べる場所などあろう筈もない。自販機が時々あるくらい。転倒して擦りむいた右膝が徐々に腫れて、痛み出して来た。これくらいなら、何とか持つだろう。急カーブの連続となり、しかもアップダウン。農村地帯だ。足が痛い。坂上松華堂で頂いたザバスのゼリーがあったので2個口にする。ザバスは美味しくないが、この際食べないと。一緒に痛み止めの「イブA」も飲んだ。これくらいで効かわからないが、痛みが増したので仕方ない。出来るだけ前に進むよう進むよう歩く。時々通る車には細心の注意を払う。先に峠に向かう長い坂が見えて来た。長いなあ。その時、ワゴン車が通った。サポートを終えた名古屋のけんちゃんとか一さんがルネス金沢に向かうところだった。激励の言葉を貰う。本音を言うと乗せて欲しい心境。

## 【富山・石川県境(241.4km)】 5月1日 23時14分

あと25kmだ。ついに石川県に入った。ここからは下りになるので走った。三滝MCのエイドが見えた。助かる。温かいうどんを頂く。温かい物は嬉しい。ここで山崎さんが到着。この先も寂しいが、1km毎に距離が減っていくので元気が出る。緩い下りを先に進むと、右に東海北陸道の高架が見え始めた。コースはアップダウンがまた増え出した。もう完全に走ることは出来ない。イブAも今回はあまり効いてくれないようだ。薬より、エネルギー切れ、あるいは眠気かもしれない。しかし、もう大丈夫だ。車にだけは気をつけよう。ひとりで歩いていると、途中でボランティアの車がホーンを鳴らしてくれると嬉しいものだ。この山中はつい最近通ったところのように思えてならなかった。何故なんだろうと考えながら進む。不思議だ。

「古屋谷町」を越えると民家が増え始めた。あと20kmを切った。眠たい。無茶苦茶眠たい。道路標識や看板、様々なものが人に見え始めた。山の中では暗いので気がつかなかったが、明らかに幻影だ。これが幻影か！。マグライトの電池が切れたので交換する。しかし、点灯しない。球が切れているのか。後で見ると電池の方向が逆だった。その時は正しく見えた。これは幻想なのか。街灯もあるようになった。ずっと民家が続く、金沢に近づいて来ている。この頃から何人かのランナーが後ろに見え始める。コンビニに寄ってヨーグルトを買う。美味しい。森本近くになって羽根を頭に付けた寺澤さんが勢い良く追い抜いて行った。「アイシングしているから、最後になってもこうして走れる。アイシングしないと走れなくなるんだ」と言って離れて行った。

「森本T字路」は1時25分通過。あと13.3kmだ。しかし、これからの長いこと、眠たいこと。歩道のある国道159号線を兼六園に向かうが、完全に半分眠って歩いている。距離感がなくなり、ただ夢遊病者状態の自分がかかる。東海北陸道高架下を越え、大夫来たように思えても、地図を眺めると全然来ていない。歩いているのか、立ち止まって寝ているのか自分でもわからない。この4kmくらいで数人に抜かされた。鈴木さんにも抜かされた。ローソンが見えたので、兼六園は近いことに気が付く。「橋場」で後続が3人来たので、後ろを必死で着く。全然方向がわからない。ややこしい所に入って行ったところが兼六園のようだ。やや眠りからは覚めていた。「兼六園」内の坂を上って行く。

## 【兼六園1500本佐藤桜(259km)】 5月2日 03時04分

ここで6人が一緒になった。酒井さんが出迎えて下さった。こうやって酒井さんは時間オーバーした最終ランナーが来るまで待って下さる。25時間以上ここで待機して下さっているのだ。余りにも温か過ぎる。ここにはエイドもあった。水を少し頂き、ルネスを目指す。

ひとりは走って行った。「ここまで来て、タイムを気にしなくても。まあ、中にはそういう人もいますよ」と言いながら、残り5人はポツポツと歩いて先に進む。寺澤さんと鈴木さんは飛騨ウルスの話で盛り上がっていた。あとの3人は黙って歩いている。私は方向がわからないのでただ付いて行くだけ。これがひとりなら大変だったと思う。「香林坊」、「むさし」から「むさし西」、「六枚」とややこしい交差点を折れながら歩く。元気な寺澤さんと鈴木さんは走り出した。JR高架下を潜り、真っ直ぐに行くと、masaさんと関家さんが迎えてくれた。ここは「二口町」で「ルネスまであと3km」と教えて貰った。まだ3kmもあるの、といった感じだ。安原さんと坪内さんに引っ張られ、必死に歩く。2人とも経験者のように思えた。長袖と半袖の重ね着だけなので寒くなって来た。風も出て来た。「あれがルネス」と言われ、やっとルネスが見えた。角で誰かが迎えてくれている。くーさんだった。ほおとして「もう、歩きとやうない。疲れた」と言う。「どこがゴール」と聞くと、「一番端」と言われ、すぐそこが長くてどうしようもない。ゴールの建物が見えて来た。右折し、ルネス金沢内に入る。ゼッケン180番坪内さん、私、ゼッケン207番安原さんの3人で手を上げてゴール。文集で見たあのシーンだ。



## 【ルネス金沢(ゴール 265.8km)】 5月2日 04時31分

安堵感でいっぱいになる。無事ここまで自分の足で来られたことが何よりも一番嬉しい。本当に不眠不休だった。この瞬間、本当のウルトラランナーになったと思った。まさに「ありがとう、さくら道」だ。海宝さんが迎えて下さった。「ありがとうございます」と言って握手。ルネスに入った瞬間、緊張の糸が切れ、眠気が一気に襲い、身体が固まった。

### 【さくら道を走り終えて】

まずは汗を落としたいので風呂に入るがロッカーが階段下とは辛い。降りるのも大変。そうすると目の前が回り出した。急に高温高湿の中に入ったので、貧血を起こしたのだろう。ぼおとして動けない。そして、風呂に入ったのは良いが、すぐにウトウトし始め、長居は無用。洗って、水風呂と温泉を2回ほど繰り返す、上がる。じゅうたんの通路で横になり、ぐっすり眠った。どれくらい寝たのか覚えていない。目を覚ますと毛利さんを見かけたので声を掛け、9時前に朝食バイキング。食欲満点。再び横になり、11時の懇親会を待つ。松倉さんに会うと30分ほど時間オーバーだったとのこと。あの状態でよく頑張られたと思う。

懇親会では松倉さん、朝倉さん、清原さん、綱村さん達と同席する。先ず海宝さんの話があり、速いタイムでゴールされた方々のコメント、前週のネーチャーラン7位のちび黒さんはここでも30時間10分の大会記録で1位と凄い。今回、無茶苦茶苦しまれたかつての王者丹代さん、さくら道が人生という齊藤夫妻、ネーチャーラン大会新記録のタイムで1位の関家さんたちのコメントがあった。5年連続完走者には九頭竜走友会より、山崎さん手彫りの記念品が贈られた。平さんもそのひとりだった。松倉さんは時間外のため、今回からは除外となり、該当しなかった。残念だと思う。更に momi さんのフラダンスと続く。

海宝さんから来年のさくら道は4月28日から30日に開催すると発表があった。そして、再来年は館山さんの協力を貰って、自らランナーとして参加すると言われた。その間も酒井さんは兼六園で最終ランナーを待ち続けられている。優しい人だ。凄いと思う。懇親会中も眠気でウトウトする。お開きの13時頃、宮本さんと伴走の春井さん、サブ伴走のマッツちゃんがゴールされたら海宝さんから報告があり、懇親会場に。三島夫妻がさくら道出発前日に交通事故で亡くなられるという悲しみを乗り越え、ゴールされたことに深い感慨を覚えた。海宝さんも目頭を押さえられていた。私も思わず、涙が出て来た。



懇親会が終わると早く帰りたいので、松倉さん、毛利さんと3人でタクシーを頼み、金沢駅へ。毛利さんはバスで大阪へ帰られ、松倉さんと私は14時15分発の「雷鳥」があったので缶ビールを飲み、熟睡して帰る。京都まで2時間20分しか掛からなかった。家に着いたのは17時半頃。こうして長いさくら道の旅は終わった。

### 【時の経過とともに】

さくら道が終わり、家に帰って完走記を書きながらいろいろなことを思い出した。しかし、この3日間は長かったのか、短かったのか良くわからない。ただ、道中のことが鮮明に見えてくる。いつも運動会でビリだった自分、その内走る時になると隠れていたあの頃が何度も浮かんだ。今までは何時間何分の世界だったものが、時を感じる今何時何分の世界に変わる走りになって来たことも事実だ。

100kmでも嫌になることが多いのに、今回は一度もそういうことがなかった。振り返って見ると「さくら道は本当に優しい道」だった。人も、自然も、コースも、ランナーも全てが優しくかった。そんな中、常に自分自身と向き合いながら、自問自答したおかげで謙虚になれたように感じる。そして、本当に多くの方々に背中を押して貰っていたんだと強く実感した。私設エイドやサポートの方々はお金にもならないことを夜通しでどうしてここまでやってくれるのと素直に思った。その費用は自分達持ちで、何で、何で。それは「佐藤良二さんのさくら道を愛する人々」だからだと思う。酒井さんが言われるまさに「ひとつ心」なのだろう。

佐藤良二さんの夢見た「太平洋と日本海を桜で結ぼう」の軌跡を辿ることによって、7年前の感動が甦った。そして、憧れのさくら道を走れたことは何にも代え難い宝物を得たように思える。人生観を変えてしまうかもしれない。「太平洋と日本海を桜で結ぼう」。この壮大な夢の一端を垣間見ることが出来た喜びがじわじわと湧いて

来た。本当に「ありがとう、ありがとう」のさくら道だった。今思えば、もう一度逢いたい、見たいががいっぱい頭の中を横切る。

美並の桜にも、鯉のぼりにも、アップルジュースをくれた少年にも逢いたい。

大和町の「本田よのさん」にも逢いたい。

「桜守佐藤良二君顕彰碑」もゆっくり見たい。

民宿「さとう」にも寄って話をしたい、佐藤良二さんの姉てるさん、兄勲さんにも逢いたい。

「白鳥の桜並木」も満開の頃に見たい。

「蛭ヶ野分水嶺」の太平洋と日本海の分水も見たい。

樹齢450年「莊川桜」の満開も、御母衣ダムも、白山連峰の麓の村々にも逢いたいし、温泉にも入りたい。

「白川郷」や「五箇山」合掌集落にも逢いたい。

「五箇山とうふ丼」も食べたい。

「五箇山トンネル」も走りたい。

蛭ヶ野や石川県境エイドでのうどんも頂きたい。

「坂上松華堂」さんにもゆっくり寄りたい。

「兼六園の1500本佐藤桜」の下で桜を眺めたい。

そして、さくら道を愛する人々、ランナー達とも逢いたい。

いろいろな思いが駆け巡る。ああしたかった、こうしたかった、は来年の宿題としよう。

佐藤良二さんの夢見た「太平洋と日本海を桜で結ぼう」、憧れのさくら道を走れたことはランニング人生の中で最高の喜びだ。来年も参加して、もっともっと「さくら道」を味わいたいと思う。

## 太平洋と日本海を桜でつなごう

